

## 自己紹介と報告

高井康裕（中小企業組合総合研究所 理事長）

私は、昭和15年（1940年）2月 兵庫県姫路市に生まれ、昭和33年（1958年）高等学校卒業後、大阪の繊維商社に就職。その後、昭和40年（1965年）セメント生コンを扱う建設資材商社 北浦商事(株) 入社。その間、広島・岡山・神戸・大阪・東京勤務他、関連会社代表取締役兼任。平成15年（2003年）9月 民事再生申請すると同時に、従業員雇用を守る為に、63歳で、独立自営。

現在、神戸生コンクリート協同組合 副理事長、兵庫県中央生コンクリート協同組合連合会 副会長、大阪兵庫生コンクリート工業組合理事、大阪広域生コンクリート協同組合 監事、(株)兵庫生コン兵庫播磨コンクリート(株) (有) 武庫川生コン 新湊川運送(株) 兵庫運輸(株) 兵湊運輸(株)の各代表取締役に就任しております。

GSEFモントリオール大会に参加して、感想を述べるとしたら、こんな大きな大会に初めて参加したのですが、私にとっては、大変、難しい大会でありました。

一つには、言葉の壁、意思の疎通が出来なかった事、それからもう一つは、その発表した国の国情が分かりません。また、法規も分かりません。そういう中で、やはり言葉の壁が非常に重大ではなかったかと、こう思っております。だからもっと、事前に、この大会の調査、研究をし、大会の主旨を充分理解し、望むべきであると感じました。

昨年は、EUからのイギリス離脱。世界は、非常に変わって来ているんじゃないかと思っています。その中で、社会的連帯経済を勉強する事が出来ましたが、時代の流れを見て、実践を通して、拡大して行く事が大切であると思う。

私は、今日まで50数年間、生コン販売店と生コン製造、ミキサー車輛事業に携わり、多くの事を学んできました。この間の経験の中で、以下3点の事例を述べます。

1. 1980年代の経験です。当時、私は、兵庫県下最大のセメント・生コン販売会社に勤めており、販売活動に於いては、ダントツの成績を上げていました。神戸市内では、受注量が多かった竹中工務店と住友セメント、そして、私が所属していた北浦商事が、密かに新プラント工場を建設した事です。この事について、今の連帯労組生コン支部が「雇用権が侵害される」として、反対運動され、結果的に10億円投資で出来上がった、生コン工場の稼働を中止、廃棄、撤去した件です。

今、思えば、私は、企業の利益の為に、業界に競争関係を持ち込んで、安売り競争になりかねなかった事。労働者の将来における、雇用権の侵害に当たる行為であったと思いますが、その当時は、「協同組合との協調、労働組合との協力」という、深慮が足りなかった事によるものです。

2. 2000年代に入り、岡山市内を中心とした生コン協同組合が、原価割れを回復したいとの事で、岡山市内にアウト工場として稼働していた、北浦商事の生コン工場の協同組合への結集を求められていた時、あくまでもアウト工場のまま自主営業を主張し、労働組合との対立状態が続いていた件で、結果的に、岡山市内の協同組合は、関西地区生コン支部との協力のもと、原価割れを回復し、根戻し・値上げを実現しました。

今、考えると、当時の北浦商事は、量拡大で独立独歩の歩みをしていましたが、この安売りが一つの原因となり、会社倒産を経験した事です。又、時代状況で需要が減少し、個社型では会社が成り立たず、協同組合による共助型が求められている事を認識するようになった事と、自らの経験の中から、今日では、競争ではなく、共生・協働型の考えのもと、協同組合運動に取り組んでいます。

労働組合との協力関係については、三つ目の事例のように、関西でのモデルを作っています。

3. 労使協同で創る新たな輸送モデル「兵湊運輸株式会社・企業理念」（別紙）実践事例について、お話し申し上げます。